

報告 広告物等景観保全地区にかかる市民意見募集の結果について

1. 趣旨

- ・都市景観は、自然をはじめ建物や道路、街路樹など様々な要素によって構成され、屋外広告物も都市景観を構成する重要な要素の一つとなっています。
- ・地域の景観に調和するとともに、神戸の玄関口としてふさわしい景観を整序していくため、郊外インターチェンジ周辺地域を広告物等景観保全地区に指定し、広告看板の位置や色彩等を規制・誘導することにより、周辺環境と調和した統一感ある沿道の広告景観を形成することをめざします。

2. 意見募集期間：令和5年6月20日（火曜）～7月21日（金曜）

3. 意見件数：2件（1通）

4. 意見の概要と本市の考え方

※ご意見の内容は趣旨を損なわない程度に要約しています。

	意見の概要	意見に対する本市の考え方
1	基本的に高速道路のインターチェンジ付近というものは車両運転者にとって要注意義務のある場所であり、広告看板はあまり見ていないと思う。どちらかと言うと巨大看板で派手な店名、企業名看板にしているものは、走行時のサブリミナル効果を狙ったものであるから景観破壊などはほとんど係わりのない意味合いであると思う。	本市郊外の高速度道路等のインターチェンジ周辺は、神戸への訪問者の目に最初に触れる場所であり、神戸のイメージや魅力に影響を及ぼす地域の顔となる重要な空間と考えています。 一方、郊外のインターチェンジ周辺の一部では、人の目を引くことのみを目的とした大きく派手な広告が乱立し景観の調和を著しく阻害しています。また、交差点付近は、広告看板により信号機や交通標識の視認性を低下させ、交通事故の発生や円滑な移動の妨げとなる恐れも考えられます。 このため、地域の景観に調和するとともに、神戸の玄関口としてふさわしい景観として整序していくことを目的に、郊外インターチェンジ周辺地域を広告物等景観保全地区に指定するものです。
2	広告看板を禁止しても何ら反対しないが、文章化したものでなく企業ロゴマークなどの比較的洗練され、単純化されて大衆に馴染み深くデザインされた看板に誘導するのが良い。	広告看板に表示する内容について、そのデザイン等の洗練度や馴染み深さの程度を客観的な規制基準として定めることは難しいと考えています。広告物等景観保全地区では、広告物の相互間距離や信号機及び道路標識からの距離、広告物の彩度について新たに数値基準を設けました。 周辺の景観と調和した望ましい屋外広告物のあり方については、今後も有識者等の意見も踏まえながら研究していきます。

5. 施行予定時期 令和6年1月

広告物等景観保全地区について（案）

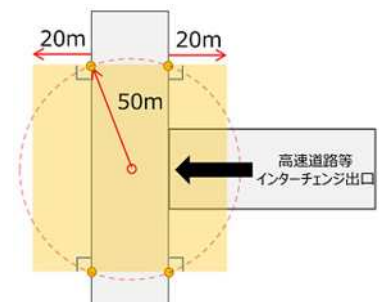
1. 概要(基本的な考え方)

- ・高速道路等のインターチェンジ周辺は、駅前空間と並び神戸への訪問者の目に最初に触れる場所であり、神戸のイメージや魅力に影響を及ぼす地域の顔となる重要な空間です。
- ・一方、郊外のインターチェンジ周辺の一部には、人の目を引くことのみを目的とした大きく派手な広告が乱立し景観の調和を著しく阻害しています。
- ・また、交差点付近では、これらの看板により信号機や交通標識の視認性を低下させ、交通事故の発生や円滑な移動の妨げとなる恐れがあります。
- ・地域の景観に調和するとともに、神戸の玄関口としてふさわしい景観を整序していくため、郊外インターチェンジ周辺地域を広告物等景観保全地区に指定し、看板の位置や色彩の規制・誘導等を行い、周辺環境と調和した統一感ある沿道の広告景観形成をめざします。

2. 指定範囲

- ・市外から市内に車両が流入する郊外の高速度道路等のインターチェンジ 23 か所周辺地域
※人口集中地区（DID 地区）以外のインターチェンジ（別表参照）

- ・高速道路等の出口と一般道路の合流する地点を起点に半径 50m、一般道路の道路境界線から 20m の範囲で指定する区域



3. 表示方法等

- ・広告物等の位置、色彩、意匠等について新たに基準を設けます。

広告物の種類	位置、色彩、意匠その他表示の方法
地上広告物 (野立看板)	(1) 広告物の相互間距離は 5 m 以上とすること。 (2) 信号機及び道路標識からの距離は 5 m 以上とすること。 (3) 彩度 10 以上の色数は 2 色以下とすること。 (4) 広告物が複数掲出される場合は集合化に努めること。 (5) 神戸市景観計画の景観計画区域全域（重点地域及び重点地区を除く。）における「屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項」に示す景観形成基準及び夜間景観形成基準を満たすこと。

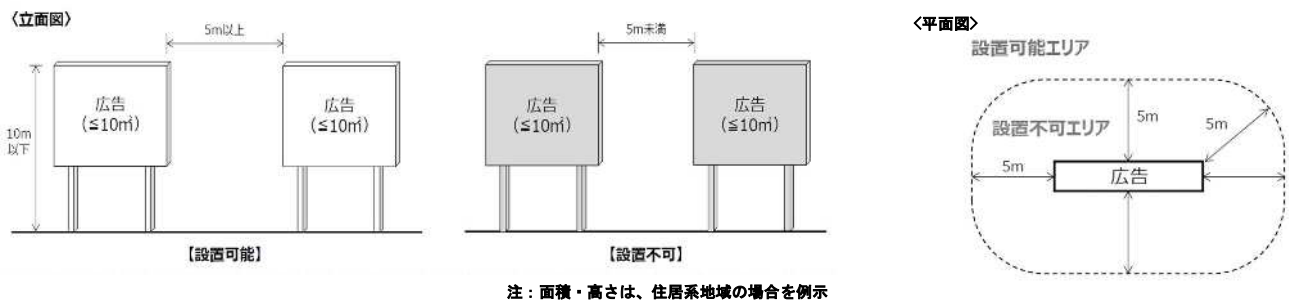
【参 考】

(1) 現行の主な基準：神戸市屋外広告物条例施行規則別表第1

広告物の種類	広告物等の規格及び条例第5条第1項、第3項又は第5項の許可の基準			
地上広告物 (野立看板)	広告物等の高さ		広告物の表示面積	
	住居系地域	商工系地域	住居系地域	商工系地域
	10メートル以下	15メートル以下	1面につき10平方メートル以下	1面につき30平方メートル以下

※ 住居系地域・・・市街化調整区域、第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域
 商工系地域・・・準住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域、工業専用地域

(2) 新たな基準での看板の設置イメージ

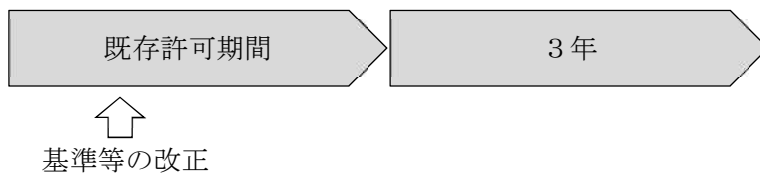


4. 経過措置(既存不適格物件の経過措置の期間)

現在の許可年数終了後、3年を経過するまでの間（神戸市屋外広告物条例第12条の3）

地上広告物（野立看板）に適用される経過措置

（地上広告物の許可期間は3年）


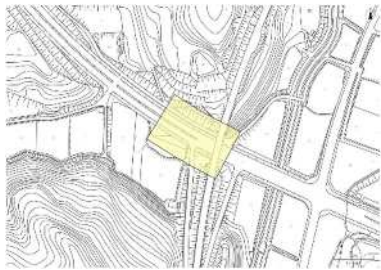

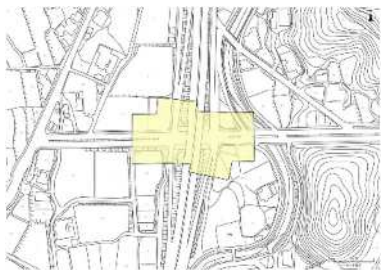
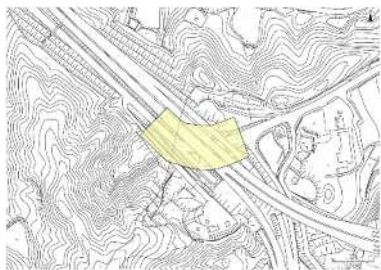

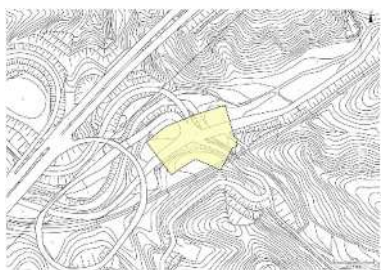




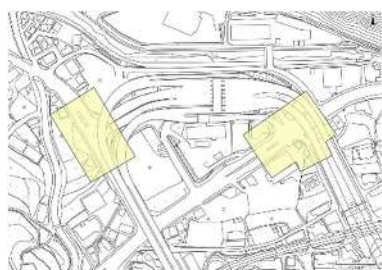


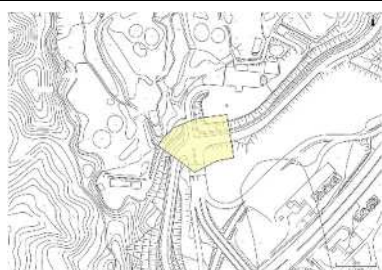


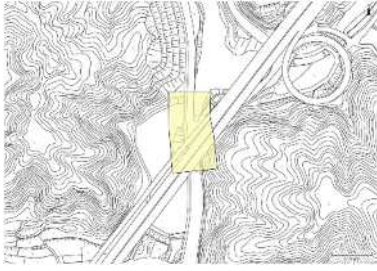




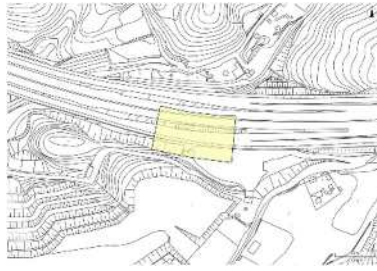


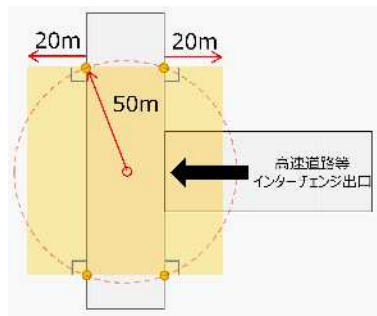
5. その他（規則の改正について）

- ・神戸市屋外広告物条例第8条に基づき、広告物等景観保全地区に指定する旨を公告します。
- ・神戸市屋外広告物条例施行規則別表第1を改正し、条例第8条第1項の規定により指定した広告物等景観保全地区の区域内にあっては、広告物等は、同条第2項に規定する基本方針に即したものとすることを許可の基準とします。併せて神戸市屋外広告物条例施行規則に定める一部の様式について文言整理等を行います。

【指定区域】

・市外から市内に車両が流入する郊外的高速道路等のインターチェンジ23か所周辺地域

1 神戸三田 IC	2 長尾 IC	3 大沢 IC
		
4 吉尾 IC	5 柳谷 IC	6 五社 IC
		
7 有馬口 IC	8 唐櫃 IC	9 からと東 IC
		
10 唐櫃南 IC	11 からと西 IC	12 箕谷 IC
		
13 藍那 IC	14 神戸西 IC	15 しあわせの村 IC
		

16 布施畑東 IC	17 布施畑西 IC	18 布施畑 IC
		
19 前開 IC	20 永井谷 IC	21 長坂 IC
		
22 伊川谷 IC	23 玉津 IC	【参考】指定範囲模式図
		

※ 上記インターチェンジ(IC)の道路の名称

- 中国自動車道 1
- 第二神明道路北線 21
- 第二神明道路 22、23
- 六甲北有料道路 2、3、4、5、8
- 六甲有料道路 10
- 阪神高速7号北神戸線 6、7、9、11、12、13、15、16、17、19、20
- 阪神高速32号新神戸トンネル 12
- 神戸淡路鳴門自動車道 14、18